

令和 7 年度 学校経営環境分析書

広中央中学校区 校番 4 学校名 呉市立広小学校

1 学校の内外環境の分析

外部環境	O (支援的要因) ①保護者や地域、関係機関等交通安全指導等に協力する体制ががでている。 ②地域の人材や資源、環境を活用した教育活動が可能である。 ③外部や関係機関と児童に関する連携を密に行っている。 ④PTA役員が協力的である。	S (強み) ①スマイルタイム等、つますきを把握し、個に応じた取組を組織的・継続的に行っている。スキルタイムでキュビナを実施し、基礎学力の定着を図っている。週に 1 回読書タイムを設け、読書習慣を付けている。 ②タブレット端末等を活用した授業や業務改善に組織的に取り組んでいる。 ③落ち着いて学習できる児童が少しずつ増えている。 ④不登校傾向の児童に係る取組を組織的・継続的に行っている。	内部環境	支援的要因と強みを生かした活動・取組は ○個に応じた課題解決に係る研究や取組の継続 ○学力向上・業務改善に繋がる ICT (キュビナ等) の効果的な活用 ○時と場に応じたふさわしい行動の指導の徹底 ○不登校傾向の児童解消に向けた組織的・継続的な取組
	T (阻害的要因) ①周囲の道路は交通量が多く、交通事故の危険性が高い。 ②バス通学の児童が多く、乗車下車の際の事故が心配される。また、バスの時刻で予定が左右されたり、バス内でのトラブルが心配されたりする。 ③校区に安全な遊び場が少ない。ゲームセンター等があり、生徒指導上の課題が生じやすい。 ④保護者の価値観が多様で、協力を得にくい家庭がある。	W (弱み) ①学力が二極化し、思考力・判断力・表現力が十分ついていない児童や、学びに困難さを抱えた児童が多い。 ②生徒指導上配慮や支援を要する児童が多い。 ③児童の自尊感情・自己肯定感の平均値は高いが、不登校、不登校傾向の児童は多い。 ④基本的生活習慣や体力が十分ついていない児童がいる。 ⑤校舎が老朽化し、空き教室がないため、学習環境が整いにくい。		○生徒指導の実践上の視点や特別支援教育の視点を取り入れた授業 ○児童理解に基づいた個に応じた指導・支援 ○自分のよさを実感できる場の設定や肯定的評価の実施 ○基本的生活習慣や体力・運動能力向上の取組 ○年間を通した「自分の命は自分で守る」力の向上に向けた取組 阻害的要因と弱みを克服する活動・取組は

2 重点課題

★★★ 学力の向上

- ・基礎・基本の徹底
- ・学力向上に繋がる ICT 機器の効果的活用
- ・導入の工夫
- ・実態把握に基づいた個に応じた指導 (授業や補充学習等)

★★ 自尊感情・自己肯定感の向上

- ・児童理解に基づいた個に応じた指導・支援
- ・肯定的評価の実施
- ・不登校傾向児童の解消
- ・挨拶、黙々掃除の定着
- ・体験活動の充実

★ 「自分の命は自分で守る」力の向上, 体育的活動の推進

- ・防災教育の深化
- ・安全指導や避難訓練の改善
- ・体育朝会、くれチャレンジマッチ、外遊び